

クリニカルクエストで 学ぶ糖尿病治療薬

糖尿病治療の新しい潮流

わが国の糖尿病医療の歩みを振り返ると、それぞれの時代に抱えていた困難や課題を克服すべく、医学研究、医療者教育、市民啓発などに多くの力が注がれてきたことがわかります。昭和の時代には、適切な診断に基づく疾患概念の共有が進み、高い未受診率を改善するための健康教育も各地で展開されました。平成の時代に入ると、血糖マネジメント水準と慢性合併症の関連性を示す大規模臨床研究の成果や EBM (evidence-based medicine) の概念が臨床医の間で広く共有されるようになりました。糖尿病治療薬が数多く上市されたのもこの時代です。良い血糖マネジメントの必要性が認知された時期に、これを達成するための新しい治療薬を手に入れることができたのは、患者にとっても、医療者にとっても幸運なことでした。

その一方で、指導と治療のばらつきが顕在化してきたのも事実です。増加の一途を辿る糖尿病患者に必要な医療を届けるために推進された地域連携体制の構築過程で、予想以上に大きな診療内容の違いが可視化されました。近年は、認知症・サルコペニア・フレイル・低栄養などの老年症候群と多彩な合併症・併存症を抱える高齢者糖尿病のマネジメント、そしてこれに応えるための、質の高い多職種連携なども求められています。

今、わが国の医療は大きな転換点を迎えています。「個別化」の概念が広く浸透し、疾患の成因・病態・合併症などの医学的診断に加えて、1人ひとりの人生観や社会経済状況などを包含した総合的な判断においても求められる時代になりました。糖尿病に対するスティグマを取り除くアドボカシー活動に対する賛同も広がりつつあります。このような全人的なアプローチの実践において、多彩な糖尿病治療の選択肢を最大限に有効活用するプロフェッショナルとしての知識と技術が欠かせません。

そこで本特集では、糖尿病診療の現場で求められる高い水準の総合的・俯瞰的臨床力を身につけるお手伝いができれば…という願いを込めて、「臨床現場で抱く身近な疑問」を解消しながら、「最新の糖尿病学に基づいた指導と治療」を習得できる魅力的な特集を組みました。糖尿病診療の最前線でご活躍の専門医から、臨床判断の「感性」や「コツ」に相当する内容を含めて、簡潔明瞭に解説いただいています。どの項目から読み始めてもわかりやすい形式ですので、忙しい診療の合間に興味のある部分だけをご覧くださいても構いません。

糖尿病治療薬がメインテーマですが、指導や治療の基本的な考え方や工夫についても幅広く取り上げさせていただきました。「薬物治療に偏向してはいけない」という警鐘を鳴らすことで、糖尿病治療薬についての正しい理解をお届けできるものと思います。お読みくださいました先生方の診療に少しでも貢献できるよう、心から願っています。



津村 和大

川崎市立川崎病院病態栄養治療部